すとーん・さーくる

No.123

発行　新潟県石仏の会（代表　星野　紀子）　2025年7月15日　発行
事務局　〒945-0837　柏崎市三島町16-2　渡邉三四一　電話0257-22-1941
ホームページ　http://niigata-sekibutu.voxx.jp

石仏散歩

桑取谷の六地蔵に観る地域性の考察

上越市　栗間啓志

石仏見学会の準備として桑取谷地区の基礎調査を重ねるに従い、殊のほかに六地蔵が多く存在する事に気付かされた。所謂、石仏悉皆調査報告は度々目にするが、その分布や偏在等に関する論説は稀である。

まず仏教としての六地蔵信仰は、平安時代の末期に端を発する六道輪廻転生説（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六界を輪廻する）との教義を六体の地蔵により具象化したものであり、基本的には宗派を超えた崇拝対象となっている。

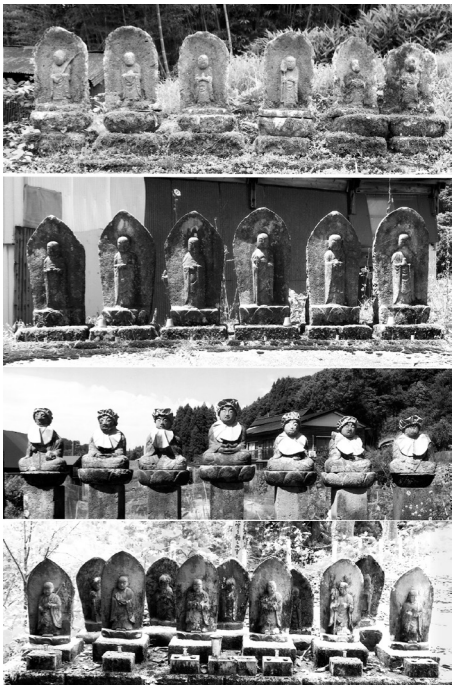
但し、親鸞聖人を開祖とする浄土真宗では、専修念仏による阿弥陀仏への信仰と帰依を本願とし、六地蔵に対して祀ることはないとされている。

調査によると、桑取谷に存在する寺院七ヶ寺のうち六ヶ寺の全てが曹洞宗で、残る一ヶ寺のみが浄土真宗であることにより、六道輪廻教義の信仰がこの地に浸透定着していた事が窺えてくる。〝桑取谷〟の地名が歴史上に現れるのは、上杉謙信の死後、上杉景勝と上杉景虎よる跡目争いとして世に知られる「御館の乱」（天正六年…一五七八年）である。景虎軍の攻勢に春日山城に籠城する景勝軍が、食料調達基地として頼ったのは、春日山城の西側背後に控える桑取谷集落であった。つまり当時は春日山城と桑取谷は一体化した存在であり、上杉家の菩提寺として春日山の麓に現在も存在する林泉寺は、曹洞宗の古刹として知られている。時代を下って江戸時代に入ると、浄土真宗が信徒数を急激に増加させるが、桑取谷地域は既に曹洞宗で纏まっており、また狭隘な地勢に住む限られた住民衆にとっては、その上に更なる浄土真宗を受け入れる素地は無かった。

因みに、ほんの数キロ先にある近世の譜代高田城下では、多数の寺院が集中する高田寺町の六十六ヶ寺のうち、浄土真宗が三十六ヶ寺の圧倒的多数を占めていることに因り、高田寺町に於いては六地蔵の存在は希少である。

一つの論考として、桑取谷が浄土真宗の排斥された地域である事が、数多い六地蔵の存続要因として否定はできないと考える。何れにしても、古来からによる六地蔵の数多い存在は、地域住民の信仰実相を今に伝える証（あかし）として注目されて良い。

近年、諸般の事情から石仏の移設や廃棄により、その所在自体が危ういが、石仏の在りかと偏りを基とする調査は、石仏の歴史的視座を厚くする上で意義深いものがある。



くわどりだに2025
上越地区石仏見学会に参加して

上越市　横山美智子

今回の見学地は、上越市西部の桑取川流域に点在する石仏群の見学でした。当日の天候に不安もありましたが、総勢二三名による見学先に期待感を抱いて出発しました。

◆西戸野の六地蔵と十王堂

集落の人達は、小高い丘全体を「お堂」と呼んで麓にある石仏を大切にしている様子が窺えました。丘の入口付近に、私達を迎えるように六地蔵が可愛らしく整列していました。十王堂には、十体の石仏が厳しい表情で並んでいましたが、これは信仰上で生前の行為を判定する裁判官と聞き納得しました。野晒しではなく、堂内に配置されているので石仏の保存状態は良かった様に思います。

◆高住の延命地蔵尊・六地蔵・三界万霊塔

かつては茅葺の地蔵堂が、今はバス停と兼用となっていて、延命地蔵尊が毛糸の衣を着服して大切に扱われている様子に、集落の方々の優しさが感じられました。洞泉寺では、中央に三界万霊塔を配置し、その左右に三体ずつの六地蔵がありましたが、右側の地蔵さんの胸に幼い子供を抱いている姿に気が付き、思わず微笑んでしまいました。

◆西山寺の薬師堂と十六地蔵さん

その昔、地滑りの為に旧寺跡より散在していた地蔵尊が集約配置されて、その様に呼ばれているとの事でした。その脇に丸彫りの地蔵さんがあり、亡くなられた庵主さんが私のことと思ってお参りするように遺言されたと聞き、高尚な方と印象に残りました。

新潟県石仏の会・上越地区 石仏見学会
「桑取川流域に佇む石仏を訪ねて」
２０２５年４月２９日

◆東林寺の六地蔵と馬頭観音

境内入口の高い石壇の上にずらっと、六地蔵が整然と並んでいました。真ん中の地蔵さんの涎掛けの下に幼児が抱かれていてビックリしましたが、参加者の小さな笑い声が広がると、和やかな雰囲気になりました。六地蔵の両脇には、鋭角の三角形をした光背を持つ馬頭観音の姿は稀有に思いました。

◆北谷の地蔵様年始

この集落では、小正月に子供達が地蔵尊（木製）を背負って、集落の一軒一軒を巡り年始のお参りを受けてまわる風習があり

ましたが、現在では少子化の影響を受け、中断を余儀なくされていることを聞き、残念に思われました。

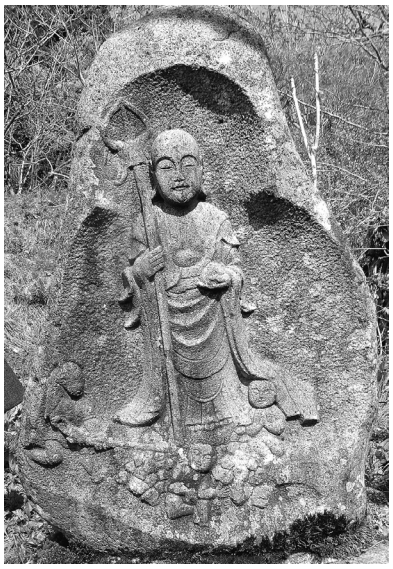
◆西谷内の路傍の六地蔵

この六地蔵は道路脇にポツンとあるのが不思議でしたが、道祖神の役割もあると聞き納得しました。今回の見学会では、数多くの六地蔵に出合いましたが、この地域では「六道輪廻」の信仰が篤く浸透していたことを表わすものと聞き、納得しました。

盛り沢山の石仏見学会に参加でき、楽しくまた色々と学習して有意義な時間を過しました。関係者の方々に感謝して合掌。

珍しい賽の河原の地蔵石仏

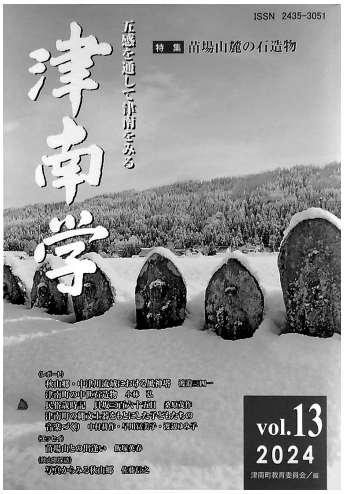
今回の見学会で印象に残ったのは、土口の霊雲寺近くに立つ地蔵石仏であった。その足元には賽の河原で石積みをする二人の子どもが、左には石積みを金棒で崩す鬼が刻まれる。「一つ積んでは父のため…」の地蔵和讃に基づく図像を施した大変珍しい石仏であった。



金棒で石を崩す鬼（左）と石積みをする子ども二人を刻む（上越市土口）

書籍紹介

特集「苗場山麓の石造物」を載せた『津南学』13号（津南町教育委員会編）がこのほど発刊されました。当会の星野紀子さんが「寄り添う神に誘われて―新潟県の双体道祖神―巡回写真展を終えて」、桑原和位さんが「双体道祖神に再度魅せられて」、渡邉三四一さんが「秋山郷・中津川流域における風神塔―故吉村博氏の調査成果を踏まえて―」を寄稿しています。他にも多岐にわたり秋山郷の石造文化に関する論考・報告があり充実した内容です。本体価格一六五〇円。問合せは同教委まで



一泊有志見学会のご案内

9月29・30日（月・火）に鳥海山麓の石神仏と聖地を歩きます。案内チラシを同封しました。ご参加ください。

事務局だより

同封チラシの一泊有志見学会と左記の二つの地区見学会を計画しました。ぜひ、大勢のご参加をお持ちしております。

◆下越・新潟地区見学会のお知らせ

日　時　10月9日(木)9時～16時
テーマ　亀田地区の歴史と石仏を訪ねて
集　合　①9時 新潟駅南口バスロータリー
②9時20分　亀田駅西口
③9時30分　新潟市江南区文化会館前駐車場(バス駐車近く)
解　散　文化会館15時30分、亀田駅西口15時40分、新潟駅南口 16時
見学地　江南区郷土資料館、亀寿院、蝸牛様、宗賢寺、斎場の石塔、伝承院塚、歯痛地蔵、地蔵院、松韻寺、真向寺ほか。
昼　食　雷神(和食)
参加費　5000円(昼食・バス代等含む)
定　員　20名
申込み　9月18日(木)締切り(先着順)
新潟事務局　堀内正子まで
電話　025-243-7640
携帯　090-6009-4682

◆中越地区見学会のお知らせ

日　時　10月30日(木)8時～16時15分
テーマ　秘境・秋山郷の石仏と史跡を歩く
集　合　①8時00分　アルフォーレ前駐車場(柏崎駅前の赤レンガ風トイレ前)
②9時20分　うもれあ(津南町埋蔵文化財センター)※旧津南町立中津小学校 津南町中深見甲2348
(②うもれあ集合の方には地図を送付)
うもれあ15時30分、柏崎アルフォーレ16時40分
解　散　うもれあ見学(学芸員による展示解説あり)、結東の観音堂石仏・風神様、栄村小赤沢散策(黒駒太子堂・とねんぼ・苗場神社・庚申塔群)、下船渡・熊野三社の双体摩崖仏と石神仏、津南観光物産館、赤沢の庚申石祠(元禄5年銘)・岩船地蔵など。
見学地　小赤沢・苗場荘「秋山郷御膳」(名物・早そば&堅豆腐入り)
昼　食　6000円(昼食・バス代等含む)
参加費　20名
定　員　10月10日(金)締切り(先着順)
申込み　中越事務局　伊比卓郎まで
電話　090-7275-8869
Eメール　tnibi@poppy.ocn.ne.jp

◆令和7年度総会を開催しました

今年度総会を5月19日(日)、ながおか市民協働センター(協働ルーム)にて開催しました。

第一部の公開講演会は一般4名、会員28名の計32名でした。講師の新潟県立歴史博物館研究員・岩瀬春奈さんからは「神社の祭り・地域の祭り―民俗信仰の担い手と神社祭祀―」と題し、県内外の祭礼を支える組織について、多くの事例を示しながらその多様性を紹介されました。

第二部の総会(14時40分～)では令和6年度事業報告・決算報告、新役員の選任、令和7年度事業計画・予算案が審議・承認されました。

新役員には井上光威さん(記録)、服部優美さん(広報)、溝口政子さん(広報)が加わりました。

なお、欠席者へは総会資料を同封しますのでご確認ください。

講師の岩瀬春奈さん

お願い　令和7度の会費未納の方には振替用紙を同封しました。早めにご納入願います。

事務局から

新年度の最初の会報と会員名簿、一泊見学会チラシをお届けします。また総会欠席の方には総会配布資料、会費振替用紙を同封いたしました。ご査収ください。

本号編集担当　上越地区事務局